

第2学年 国語科学習指導案

浜田市立金城中学校 永安 裕子

1. 単元名

清少納言・兼好法師ってどんな人？

～筆者の感性や考えに触れ、自分の考えをもつ～

2. 単元のねらい

- ・古典の随筆や筆者に興味や関心をもって作品を読み、感想を交流しようとする。

【国語への関心・意欲・態度】

- ・古典の随筆に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつことができる。

【読む能力】

- ・古典の随筆に表れたものの見方や考え方に触れ、筆者の思いを想像することができる。

【言語についての知識・理解・技能】

3. 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
古典の随筆や筆者に、興味や関心をもって作品を読み、感想を交流しようとしている。	古典の随筆に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもっている。(エ)	古典の随筆に表れたものの見方や考え方に触れ、筆者の思いを想像している。 (1)ア(イ)

4. 単元について

本単元では、【読むこと】の言語活動例ア「詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること」を具体化した。「枕草子」と「徒然草」を読み、文章に表れているものの見方や考え方について自分の考えもち、それを交流するという学習を行う。随筆は、見聞きしたことや感じたことを自由に書いた文章なので、筆者の個性やものの見方、考え方がよく表れている。それを読み、筆者の思いを想像することで、筆者がどんな人物かを考えることができる。作品を通して筆者がどんな人物かを想像することで、筆者を身近に感じ、他の章段も読んでみたい、もっと知りたいという古典を学ぶ楽しさや意欲につなげていきたい。

<個人情報保護のため省略>

指導にあたっては、生徒が単元の流れを意識し、今学習していることが今後どうなっていくのかという見通しをもちながら進めていけるようにする。また、知識構成型ジグソー法を取り入れ、他と協働しながら学習する場面を設ける。流れとしては、まず「枕草子」「徒然草」について、どんな作品か歴史的なことなどを把握する学習を行う。そして、「枕草子」は第一段、「徒然草」は序段を読み、筆者の思いを想像する。今後、二つの作品の様々な章段を読んでいくので、筆者に対する自分のイメージがこれからどう変化していくかも楽しんでほしい。二つの随筆について学習した後は、「枕草子」「徒然草」の順に作品を読んでいく。「枕草子」では、作品の解説を読み、特徴や時代背景をおさえる。そして、「九月ばかり、夜一夜降り明かしつる雨の」という章段を通して、清少納言の豊かな感受性や人が注目しないものにも目を向けるという視点に注目する。その後、さらに三つの章段を扱い、清少納言がどんな感性をもち、どんなことを考えたのか読み取っていく。「徒然草」でも、作品の解説を読み、特徴や時代背景をおさえる。「仁和寺にある法師」から、兼好法師の考える人としての好ましい生き方や知恵を読み取り、その後の活動につなげる。ここでは、六つの章段を扱い、兼好法師がどんな人物だったかということを考えていく。単元の最後に「枕草子」「徒然草」を読んで考えたことをまとめ、それを交流する時間をとる。これまでの古典の学習では、話の内容を読み取ることにとどまり、そこから広げることができなかった。本単元では、話の内容を読み取ることはもちろんだが、そこから筆者がどんな人物だったかを想像することで、筆者の多面性に気づき、ほかも読んでみたいという意欲につながるよう進めていきたい。

5. 単元の指導計画と評価計画（全6時間）

次	時	目 標	主な学習活動	評価			
				国語	読む	言語	評価規準(評価方法)
1次	1	「枕草子」「徒然草」の随筆の特徴を知る。	①「枕草子」「徒然草」二つの随筆の特徴を知る。 ②「枕草子」の第一段と「徒然草」の序段を読む。			○	【言】二つの随筆の特徴を知り、書かれている思いを想像する。 (ワークシート)
2次	2 3	「枕草子」について、様々な章段を読み、筆者がどんな人だったかを考える。	「枕草子」について ①作品についての解説を読み、成り立ちや概要を知る。 ②「九月ばかり、夜一夜降り明かしつる雨の」を音読し、現代語訳から内容をつかむ。 ③三つの章段を読み、清少納言がどんな人だったかを考える。(知識構成型ジグソー法を用いて)		○		【読】それぞれの章段に表れている筆者のものの見方や考え方をもとに、筆者がどんな人かという自分の考えをもつ。 (ワークシート)

3次	4	「徒然草」について、様々な章段を読み、筆者がどんな人だったかを考える。	「徒然草」について ①作品についての解説を読み、成り立ちや概要を知る。 ②「仁和寺にある法師」を音読し、現代語訳から内容をつかむ。 ③三つの章段を読み、兼好法師がどんな人だったかを考える。(知識構成型ジグソー法を用いて)		○	【読】それぞれの章段に表れている筆者のものの見方や考え方をと、筆者がどんな人かという自分の考えをもつ。 (ワークシート)
	5本時					
4次	6	作品や筆者について考えたことを交流する。	①これまでの学習を通して考えてきたことをまとめる。 ②まとめたことを発表する。	○	○	【読】文章に表れているものの見方や考え方に触れ、自分の考えをもっている。(ワークシート) 【国】二つの随筆や筆者に、興味や関心をもち、自分の考えを交流している。 (観察)

6. 本時の学習 (第3次5時間目)

①本時のねらい

- ・それぞれの章段に表れている筆者のものの見方や考え方をと、筆者がどんな人かという自分の考えをもつ。 【読む能力】

②本時の展開

学習活動	教師の支援	評価 (評価方法)
1 本時の学習の課題を確認する。 今日の課題 兼好法師ってどんな人？	○前時の学習を想起させる。	
2 今日の課題について、現時点の自分の考えをワークシートに書く。		

<p>3 エキスパート活動 「徒然草」の異なる章段をグループごとに読み、話の内容を確認する。</p>	<p>○章段の内容について、あとで他の人に説明できるように、グループで話し合いながら内容を確認することを伝える。</p>	
<p>4 ジグソー活動 (1) 自分が読んできた章段の内容を自分の言葉で説明する。 (2) 三つの章段から、兼好法師のものの見方や考え方について考えられることを挙げる。 (3) (2) で挙げたことをもとに、「兼好法師ってこんな人だろう」ということをまとめる。</p>	<p>○思いつくことをできるだけたくさん挙げるよう確認する。 ○話し合いがまとまらない場合は、話し合いの状況を説明できるように促す。</p>	
<p>5 クロストーク 「兼好法師ってどんな人？」という課題に対する答えを交流する。</p>	<p>○授業の最後に、もう一度個人で課題についての考えをまとめるので、他のグループの話をよく聞き考えることを確認する。</p>	
<p>6 今日の課題について、もう一度自分の考えをワークシートに書く。</p>	<p>○他の人の話を参考に、今日の課題について自分の考えを深める時間をとる。</p>	<p>☆それぞれの章段に表れている筆者のものの見方や考え方をもとに、筆者がどんな人かという自分の考えをもつ。 【読む能力】 (ワークシート)</p>

③本時の評価

	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への指導の手立て
読む能力	筆者のものの見方や考え方をもとに、筆者がどんな人かという自分の考えをもち、理由が説明できる。	それぞれの章段に表れている筆者のものの見方や考え方をもとに、筆者がどんな人かという自分の考えをもっている。	他の人の話で、共感できるものはないか考えてみるよう促す。